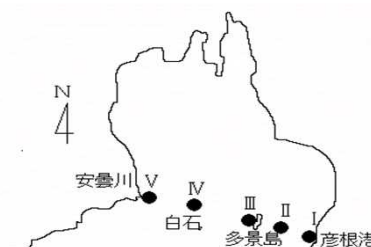


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和4年2月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和4年2月15日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

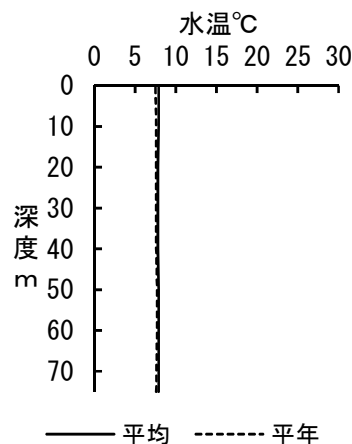
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2012年～2021年(平成24年～令和3年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 2月平均値 7.0m 平年値 6.8m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	2月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	7.9	7.5	+0.4
10	7.9	7.6	+0.3
20	7.8	7.6	+0.2
30	7.8	7.6	+0.2
40	7.8	7.6	+0.2
50	7.9	7.7	+0.2
60	7.9	7.7	+0.2
75	7.9	7.6	+0.3



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
1月下旬	7.0	7.1	-0.1
2月上旬	7.1	6.8	+0.3
2月中旬	7.2	6.9	+0.3

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	2月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	1.7	4.3	-2.6
10~20	0.8	1.8	-1.0
20~40	1.0	1.6	-0.6
40~75	1.5	1.1	+0.4

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

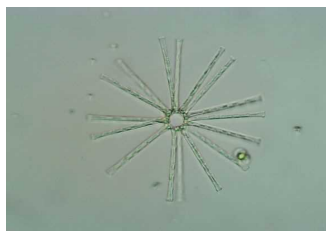
○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、地点1では*Dinobryon cylindricum*(キノブリオン:黄色鞭毛藻)および*Asterionella formosa*(ホシガタケイソウ:珪藻)が、地点2~5では*Cosmocradium constrictum*(コスモクラヂウム:緑藻)および*Aulacoseira nipponica*(アウラコセイラ:珪藻)が細胞数密度で多く確認されたが、*Micrasterias hardyi*(ミクラステリアス:緑藻)や*Staurastrum dorsidentiferum*(スタウラスツルム:緑藻)などの大型の緑藻類も量的には多くを占めている。

動物プランクトンについては、全ての地点で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生および*Kellicottia longispina*(トゲナガワムシ:ワムシ類)が個体数密度で多く確認された。



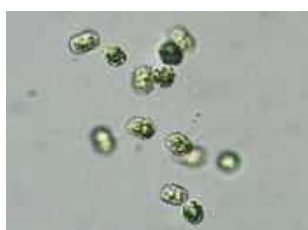
Dinobryon cylindricum



Asterionella formosa



Aulacoseira nipponica



Cosmocradium constrictum



Kellicottia longispina



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	2月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.8	94.1	11.1	96.4	-0.3	(-2.3)
10	10.9	94.9	10.9	95.5	0.0	(-0.6)
20	10.8	94.1	10.7	93.8	0.1	(+0.3)
30	10.9	94.3	10.7	93.7	0.2	(+0.6)
75	10.5	91.7	9.8	84.2	0.7	(+7.5)